

ワース
WORTH
命の値段



監督: サラ・コランジェロ

出演: マイケル・キートン / スタンリー・トゥッチ

ドラマ、日本語字幕、カラー118分

品番: GADR-2653

タイトルコード: 7011307

館内上映権なし 15,000円(税別)

館内上映権あり 25,000円(税別)

著作権処理済DVD

発売元: ギャガ

販売元: アイピーアイ / ライブラリーコンテンツサービス

©2020 WILW Holdings LLC. All Rights Reserved.

「命」と「お金」、禁断の計算式に各界騒然!

人の命に値段などつけられる筈がない。
この、あまりにも難しい問題に唸らざるを得ない。
そこに自ら立ち向かっていく主人公に
不謹慎ながら、しびれてしまった。

田原総一郎 (ジャーナリスト)

調停のプロによる独自の計算式、ルールが完璧でないから正しい補償金額を出せないのではない。ときに前に進むよりも、いや、前に進むためにこそ、**公正さ、道義的正しさ**の追求が欠かせない現実をクリアに描きだした。

風間直樹 (『週刊東洋経済』編集長)

生命の価値は誰もが同じはずだが、交通事故の死亡慰謝料には差がつけられる。『公正』(フェア)な補償額はどのように決めるのか? という**倫理的な難問**が、見事なエンタテインメントになった。

橘玲 (作家)

「限られた補償金を9.11テロ被害者遺族7000人にどう分配するか?

究極の問いに挑んだ弁護士たちの実話

2001年9月11日、アメリカで同時多発テロが発生した。未曾有の大惨事の余波が広がる同月22日、政府は、被害者と遺族を救済するための補償基金プログラムを立ち上げる。プログラムを束ねる特別管理人の重職に就いたのは、ワシントンD.C.の弁護士ケン・ファインバーグ。調停のプロを自認するファインバーグは、独自の計算式に則って補償金額を算出する方針を打ち出すが、彼が率いるチームはさまざまな事情を抱える被害者遺族の喪失感や悲しみに接するうちに、いくつもの矛盾にぶち当たる。被害者遺族の対象者のうち80%の賛同を得ることを目標とするチームの作業は停滞する一方、プログラム反対派の活動は勢いづいていく。